

新翔高等学校

実施日時	平成30年 10月 17日(水) 10:45~13:00
参加者	生徒128名、教職員50名、育友会8名、みくまの支援学校6名 佐野区地域住民7名、老人クラブ等18名、新宮市防災対策課4名 計221名
実施内容	①パーティションの設置・解体および防災実技講習(応急手当/心肺蘇生法、搬送法/ロープワーク)、②ワークショップ(非常持ち出し袋)、③炊き出し・配膳訓練、 ④社会福祉活動および聞き取り調査

事前の取組

事前学習 10月4日(木) 6限目 体育館

- ・防災スクールの目的や内容の説明
 - ・説明を受けた上で、参加する班別学習の選択をする
 - ・クラスの防災委員は、説明のための学習をする
- 防災委員(生徒)の打合せ(当日の指導役としての学習) 10月5日(金)、9日(火) 放課後

主なプログラム

- ①パーティションおよび防災実技(体操服 更衣場所は体育館)
 - ・ダンボールによるパーティションの組み立て・解体
 - ・防災実技(応急手当/心肺蘇生法・搬送訓練/ロープワーク)HR 役員(防災委員)指導による防災実技の学習
- ②ワークショップ(非常持ち出し袋)
 - ・新宮市防災対策課の方から、非常持ち出し袋について説明を受ける
 - ・非常持ち出し袋の中身を班に分かれて考え、中身の内容を発表し、相互理解を深める
- ③炊き出し・配膳訓練
 - ・α化米 200 食分を保護者・教職員と共に取り組む

④社会福祉活動および聞き取り調査

- ・老人クラブの活動に参加し、その後、災害時に関する聞き取り調査を実施する



当日の詳細な内容

- 1 開会式・諸連絡 10:45~11:00



- 2 班別学習 11:00~12:30

- 1班 11:10~11:50 パーティション(教員が指導) 生徒他120名程度 体育館

↓

- 12:00~12:30 応急手当と心肺蘇生法または搬送訓練とロープワーク 生徒他各60名程度

(講師は防災委員) 体育館 キャリア武道場

※みくまの支援学校は、応急手当／心肺蘇生に参加（人数は生徒4名、教員2名）
2班 11:10～12:30 ワークショップ（非常持ち出し袋）会議室 中央委員 他（35名）

（講師は新宮市防災対策課職員）佐野区参加
3班 11:10～12:30 炊き出し・配膳訓練 調理実習室・食堂保健委員 他

（25名）保護者（育友会）参加
4班 11:10～12:30 社会福祉活動および聞き取り調査
佐野会館図書委員、風紀委員 他（40名）



3 昼食（ α 化米）12:30～13:00 食堂他
※ 昼食の α 化米を受け取り次第、解散

1班では、教員の指導により、パーテーションの組立および解体をみくまの支援学校の生徒および教員とともに体育館で行った。その後、2つのグループに分かれ、防災実技に取り組んだ。

応急手当と心肺蘇生法のグループはそれぞれ2班に分かれ、応急手当の班は初めにみくまの支援学校の生徒とともに、三角巾を利用した止血法や腕の固定の仕方、また緊急を要するときのビニール袋を使った腕の固定法を体育館で行った。また心肺蘇生法は、蘇生法の重要性を教員が説明した後、レサシアンおよびAEDトレーナーを使って、キャリア実習室で行った。その後、班を入れ替わって再度行った。

搬送法とロープワークグループは初めに搬送法について実施、単独および複数の救助者により、けが人を搬送する訓練を行った。さらに竹・毛布

で簡易の担架を作成し、搬送する体験を武道場で行った。続いてロープワークについて本校教員指導の下、2人1組になってロープの結び方などに取り組んだ。

2班では、ワークショップとして「非常持ち出し袋」について、新宮市防災対策課職員を講師に生徒・佐野区の方・教員（カード読み上げ係り）が5つのグループに分かれて会議室で取り組んだ。

3班では、炊き出し訓練を生徒・育友会・教員が4つのグループに分かれて取り組んだ。各グループには、衛生指導等の面で育友会（保護者各班2名）と教員が必ず入り、生徒と共に訓練を進めた。なお、炊き出しは調理教室、配膳は食堂で行った。また、訓練参加者の食事場所は食堂および校内とし、ごみ処理の指導についてもごみ箱周辺や校内を教員が巡視した。

4班では、老人クラブの協力を得て、学校近くの佐野会館で行われている老人クラブの健康体操に参加した。その後、災害への備えやその時の行動、私たち高校生にできること等の質問を実施した。なお、その集計結果は老人クラブに報告した。

参加者感想文

パーテーションおよび実技指導参加生徒

今日、防災スクールでパーテーション間仕切りと救急搬送法を体験しました。パーテーション間仕切りでは段ボールをつなぎ合わせ、小さな部屋のような空間をいくつも作りました。1枚の段ボールがすごく大きく、1人で組み立てることができないのでみんなで協力して作ることが大切だと思いました。

救急搬送法では1人で搬送する方法と2人で搬送する方法について防災委員の生徒が手本を見せてくれました。1人で搬送する方法は、ケガをし

ている人の片方の腕を胸の位置に引き上げ、ケガをしている人の背後からその腕をしっかり掴み移動させるという方法でした。2人で搬送する方法では、かけ声を出して、2人が同時に持ち上げました。また、障害物を越えるような場合も声を掛け、慎重に進むように心がけましたが、訓練であってもとても難しかったです。

防災スクールが終わったあとに、配膳訓練を行った班の人たちが作ったアルファ化米が配られ、カレー味を食べたのですがとても美味しかったです。他にも何種類かありましたが、中でも炊き込みご飯が美味しそうに見えました。

今後もし、災害に遭遇したときに今回の防災スクールで学んだことを役立てていけたらいいなと思いました。

社会福祉活動および聞き取り調査参加生徒

防災スクールで、私は聞き取り調査を担当した。佐野会館で多くの高齢者の方と体操をした。高齢者の方はとても元気だった。一人ひとりの方に災害が起こったとき、どのように対応するかを聞き取り調査した。私が担当した方は旦那さんと二人暮らしで、「近くに子どもが住んでいるのでとりあえず安心だ」といっていた。家も家具などの配置を考えているし、防災グッズもすぐに持ち出せるようにしているから、逃げ出せる準備はできているそうだ。災害時に高校生に何かできることはないかをたずねたところ、「私たちはあまり動けないから家の片づけを手伝ってほしい」といっていた。高齢者の方は足腰の悪い方が多く逃げるのも大変なので、高校生が何かの力になれることがあれば積極的に活動したいと思った。今回の体験で地域の方の生の声を聞いて良かった。災害が起こったとき、今回の聞き取り調査した内容を役に立てたいと思う。

成果と課題

アンケート結果から、「体験内容はためになった」と参加者のほとんどの人が回答した。また、今年度新たな取り組みとして、新宮市防災対策課の協力でワークショップ（非常持ち出し袋）を実施したが、佐野区の方からは「すごく良かった」「ためになった」と大変好評であった。他には「炊き出し・配膳訓練」に参加してくれた保護者の人数がこれまでで一番多かった。来年度以降も多くの保護者に参加していただけるよう呼びかけていきたい。

今年度の課題としては、これまでのアンケート結果にあった「多くの体験をしたい」という生徒の要望を踏まえ、実技講習について昨年までは4つの実技の中から1つだけを選んで行っていたものを、今年度は「応急手当／心肺蘇生法」と「搬送訓練／ロープワーク」とし、2つの実技を体験できるように実施した。少しでも多くのことを体験させるという点ではよかったと思う反面、どの実技も実施時間が限られてしまい、担当教員からは「時間が足りない」、「生徒は物足りないのでは」という声もあり全体の実施時間等も含め来年度の課題としていきたい。以上のことを踏まえ、来年度はさらに充実した防災スクールにしていかなければならないという認識を強めた。